

スタンダードチャータードPLC - 2025年度第4四半期および2025年度の業績

別段の注記がない限り、すべての数字は特別要因調整後ベースで表示されており、比較の対象は2024年度で為替変動の影響を除いたベースとしています。特別要因調整後の業績に含まれていない「再編関連コスト」および「その他」の項目の内容は、32~35ページに記載しています。

ビル・ウィンターズグループ最高経営責任者は次のようにコメントしました。

「2025年は力強い勢いが続いた一年でした。有形株主資本利益率は特別要因調整後ベースで14.7%となり、3カ年計画を1年早く達成しました。当行グループは年初から好調なスタートを切り、引き続き良好な事業環境から恩恵を受けています。主要市場では更なる成長が見られ、国際貿易と投資の構造的変化により、顧客のクロスボーダービジネスおよび富裕層向けバンキング・ニーズに応える当行グループ独自の強みが発揮されています。年間配当は1株当たり65%増額し、新たな15億ドルの自社株買いについて発表しました。」

25年度の業績の概要（別段の注記がない限り、比較の対象は24年度）

- 営業収益は6%増収の209億ドル、非経常的な項目¹を除くと8%の増収となりました。
 - 純金利収入（NII）は1%増の112億ドルとなりました。
 - 非純金利収入はウェルスソリューション、グローバルバンキング、グローバルマーケッツなどが原動力となり、13%増の97億ドルとなりました。
 - ウェルスソリューションは24%の増収となり、インベストメントプロダクツとバンカシュアランスはともに2桁の増収を達成しました。
 - グローバルバンキングは、組成額および販売額の増加ならびにキャピタルマーケッツの業務拡大により、15%の増収となりました。
 - グローバルマーケッツは、フロー収益が主な原動力となり、12%の増収となりました。
- 営業費用は、効率性の向上で一部相殺されたものの、事業成長に向けて対象を絞った投資により、4%増の123億ドルとなりました。
- 信用減損は6億7,600万ドルとなりました。ウェルス&リテールバンキング（WRB）では無担保ポートフォリオの最適化などにより、2,800万ドル減の5億9,500万ドルとなりました。コーポレート&インベストメントバンキング（CIB）の信用減損は400万ドルとなり、前年度の戻入が今年度はなかったことから1億2,400万ドル増加しました。
- 再編関連コストおよびその他のコストは9億3,700万ドルで、フィット・フォー・グロス・プログラムに関連する5億3,100万ドルのコストが含まれます。
- 特別要因調整後の税引前利益は18%増益の79億ドル、報告ベースの税引前利益は18%増益の70億ドルとなりました。
- 有形株主資本利益率（RoTE）は、300bp上昇して14.7%、報告ベースのRoTEは11.9%になっています。
- 当行グループのバランスシートは引き続き健全で流動性が高く、十分に分散されています。特別要因調整後の顧客向け融資残高は5%増加し、特別要因調整後の顧客預金の残高は12%増加しました。
- リスク・アセット（RWA）は110億ドル増の2,580億ドルで、信用リスク・アセットが28億ドル増、市場リスク・アセットが24億ドル増、オペレーショナル・リスク・アセットが57億ドル増となりました。年次の増減認識のタイミングが翌年度の第1四半期から当年度の第4四半期へ変わったため、2025年はオペレーショナル・リスク・アセットの増加を2回認識しました。
- 当行グループは引き続き盤石な自己資本を有しており、普通株式等Tier 1（CET1）比率は14.1%（24年12月31日時点では14.2%）となりました。
 - 近く開始される15億ドルの自社株買いによって、CET1比率は約58bp低下する見込みです。
 - 最終配当案の10億9,200万ドル（1株当たり49セント）が承認された場合、年間配当は65%増の13億8,000万ドル（同61セント）となります。
- 特別要因調整後ベースの1株当たり利益（EPS）は61.6セント（37%）増加して229.7セント、報告ベースのEPSは54.1セント（38%）増加して195.4セントとなりました。
- 1株当たり純有形固定資産額は189セント（12%）増加して17.30ドルになりました。

25年度第4四半期の業績の概要（別段の注記がない限り、比較の対象は24年度第4四半期）

- 営業収益はほぼ横ばいの48億ドル、非経常的な項目と振替²の影響を除くと3%の増収となりました。
 - 純金利収入は為替変動の影響を除いたベースで1%減収の30億ドル、振替の影響を除くと3%の増収となりました。
 - 非純金利収入は1%増収の19億ドル、非経常的な項目を除くと2%の増収となりました。ウェルスソリューションとグローバルバンキングが増収となりましたが、グローバルマーケッツの単発的な収益の減少により一部相殺されました。
- 営業費用は4%増の34億ドル、振替の影響を除くと7%の増加となりました。
- 信用減損は、1億4,500万ドルとなりました。WRBの信用減損が1億5,600万ドル、CIBは4,600万ドルの純戻入でした。
- 特別要因調整後の税引前利益は、19%増の12億ドルとなりました。

1 非経常的な項目は、ガーナのハイパーインフレーションとエジプトの為替ポジションの再評価に関連しています。

2 預金保険料の費用への振替

【本資料は、2026年2月24日付で発表された Standard Chartered PLC 4Q'25 and FY'25 Results（一部抜粋）の日本語参考訳です。】

スタンダードチャータードPLC - 2025年度第4四半期および2025年度の業績

見通しおよびガイダンス

2025年度の業績を踏まえ、当行グループは引き続き、顧客の活動は世界経済の構造的変化により左右されると予想しています。より多角的に連携した世界、マネーのデジタル化の進展、市場に参加する富裕層の増加などの世界経済の構造的変化は継続すると予想されます。

当行グループは、2026年5月にキャピタルマーケット・イベントを開催し、こうした世界経済の構造的変化が当行グループの次の成長フェーズにおいてどのように位置づけられるか、また業績予想の詳細について説明します。

当行グループの2026年度のガイダンスは以下の通りです。

- 報告ベースの営業収益の前年比増収率は、為替変動の影響を除いたベースで5~7%の範囲の下限前後と予想されます。
 - このうち、純金利収入³は為替変動の影響を除いたベースで前年比ほぼ横ばいと予想されます。
- 報告ベースの費用は、フィット・フォー・グロス・プログラムの最終年の費用を含め、為替変動の影響を除いたベースでほぼ横ばいと予想します。
- 法定RoTEは、12%を上回ると予想します。

3 純金利収入は、トレーディング勘定の資金調達コスト、トレジャリー勘定の為替管理業務、および利付資産の金融保証料に関して調整しています。

他の通貨を指すと明記されている場合を除き、本資料内の「ドル」という語または「\$」の記号は米国ドルを指し、「セント」という語または「c」の記号は1ドルの1/100を意味します。

本資料内で文脈上別段の解釈が必要な場合を除き、「中国」は中華人民共和国を指し、本資料においてのみ、香港特別行政区（香港）、マカオ特別行政区（マカオ）および台湾は含まれません。「韓国」は大韓民国を指します。

本資料内の表において、空欄は数値が開示されていないこと、ダッシュは数値がゼロであること、「nm」は数値が僅少であることを示します。

スタンダードチャータードPLCはイングランドおよびウェールズにおいて設立された有限責任会社であり、ロンドンに本社を置きます。当行グループの本社は、ガバナンスおよび規制基準に関する助言を提供しています。スタンダードチャータードPLCの株式の銘柄コードは、HKSE 02888およびLSE STAN.LNです。

【参考訳に関するご留意事項】 この資料は、スタンダードチャータード銀行東京支店（以下、「当行」と言います。）が、お客様の便宜のために、英語その他の言語の情報を日本語に翻訳し、提供させていただいております。従いまして、当行は、この資料に記載された情報につきまして、独自の検証を行っておりません。専門用語のみならず、翻訳の正確性も保証しておりません。英文資料が正文であり、英文資料と翻訳との間で齟齬がある場合には、英文資料が全てにおいて優先します。

損益計算書

	2025年度 (百万ドル)	2024年度 (百万ドル)	増減 ¹ %
特別要因調整後ベースの業績			
営業収益	20,894	19,696	6
営業費用	(12,347)	(11,790)	(5)
信用減損	(676)	(557)	(21)
その他減損費用	(42)	(588)	93
関連会社利益	71	50	42
税引前利益	7,900	6,811	16
普通株主に帰すべき利益 ²	5,360	4,276	25
普通株主有形資本利益率 (%)	14.7	11.7	300bps
費用収益比率 (%)	59.1	59.9	80bps
報告ベースの業績⁷			
営業収益	20,942	19,543	7
営業費用	(13,304)	(12,502)	(6)
信用減損	(672)	(547)	(23)
のれんおよびその他の減損	(65)	(588)	89
関連会社利益	62	108	(43)
税引前利益	6,963	6,014	16
税金	(1,866)	(1,972)	5
当期利益	5,097	4,042	26
親会社株主に帰すべき利益	5,085	4,050	26
普通株主に帰すべき利益 ²	4,558	3,593	27
普通株主有形資本利益率 (%)	11.9	9.7	220bps
費用収益比率 (%)	63.5	64.0	50bps
純資金利ざや (%) ^{6,9}	2.03	2.06	(3)bps
バランスシートと資本			
総資産	919,955	849,688	8
総資本	54,586	51,284	6
普通株主に帰すべき平均有形株主資本 ²	38,242	36,876	4
顧客向け融資残高	286,788	281,032	2
顧客口座	530,161	464,489	14
リスク・アセット	258,031	247,065	4
総自己資本	53,227	53,091	-
総自己資本比率 (%)	20.6	21.5	(86)bps
普通株式等Tier 1	36,440	35,190	4
普通株式等Tier 1比率 (%)	14.1	14.2	(12)bps
預貸率 (%) ³	51.4	53.3	(190)bps
流動性カバレッジ率 (%)	155.4	138.2	1720bps
英国レバレッジ率 (%)	4.7	4.8	(11)bps
普通株式1株当たりの情報⁸			
1株当たり利益 ⁴ — 特別要因調整後ベース	229.7	168.1	61.6
— 報告ベース	195.4	141.3	54.1
1株当たり純資産額 ⁵	2,007	1,781	226
1株当たり純有形固定資産額 ⁵	1,730	1,541	189
期末時点の普通株式数 (百万株)	2,247	2,408	(7)

- 1 資産、負債、リスク・アセット以外については、「増減」は改善/ (悪化) を示します。総自己資本比率 (%)、普通株式等 Tier 1 比率 (%)、純資金利ざや (%)、預貸率 (%)、流動性カバレッジ率 (%)、レバレッジ率 (%)、費用収益比率 (%)、普通株主有形資本利益率 (%) については、増減は増減率ではなく、二時点間のパーセンテージ・ポイントの差で示されています。
- 2 「普通株主に帰すべき利益 (損失)」は、非累積償還優先株、および株式に分類されるその他 Tier 1 (AT1) 資本証券の保有者に対する支払配当を控除した後の数値です。
- 3 本比率の算出にあたっては、「顧客向け融資残高」の総額には、リバース・レボ契約等担保付貸出金、およびストレス時に返済可能と確認された、中央銀行に保有された承認済みの残高を含んでおらず、一方で、「損益を通じて公正価値 (FVTPL) で保有される顧客向け融資残高」を含んでいます。総顧客口座数は、FVTPL で保有される顧客口座を含んでいます。
- 4 特別要因調整後ベースまたは報告ベースの利益を基本的加重平均株式数で割った数値です。
- 5 期末時点の純資産額、純有形資産額および株式数により算出した数値です。
- 6 「純資金利ざや」は調整後の純金利収入を平均利付資産額で割り、年率換算した数値です。
- 7 本年次財務報告書における「報告ベースの業績」とは、英国において採用されている国際会計基準および国際財務報告基準に基づいて報告される金額を意味します。
- 8 1株当たり利益、1株当たり純資産額、1株当たり純有形資産額については、増減は二期間のセントの差で示されています。期末時点の普通株式数は二期間のパーセンテージの差で示されています。
- 9 純金利収入は資金調達コストの不一致額の非純金利収入への振替を反映するため、2025年4月2日に発表された「財務情報の再表示に関する規制ニュースサービス (RNS on Re-Presentation of Financial Information)」にしたがって再表示されています。